

オオアブラススキ		<i>Spodiopogon sibiricus</i> Trin.	準絶滅危惧
			イネ科
選定理由	もともと生育地が少なく、草地環境の減少により生育環境が悪化している。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	根茎は長くりん片におおわれる。稈は直立し、高さ約100cm。葉身は長さ15-40cm、幅8-15mm。花序は直立し、長さ15-25cm。小穂は長さ約5mmで、第二小花の護穎から芒が伸び出る。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は8-10月。低山帯の明るい草地や林縁に生育する。隣接する県においては、それほど貴重な種ではないようだが、本種の生育適地である草地環境は減少しており、岐阜県においては注意が必要である。		
分布状況	北海道から九州に分布し、朝鮮、中国大陸からシベリアに分布する。岐阜県では、県北部と県南西部に見られる。		
減少要因	農業従事者の減少による耕作地やその周辺の草地環境が減少していること。道路拡張などによる環境の改変等。		
保全対策	草地環境の維持などの保全対策。道路拡張やスキー場の造成などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 長野県植物誌 信濃毎日新聞社 1997		

文責:福岡義洋